

修正内容一覧

物質ID	物質名	CAS番号	項目	修正前					修正後					備考
				分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	
16	キシレン	1330-20-7	急性毒性(経皮)	分類できない	-	-	-	ウサギを用いた経皮投与試験のLD50 > 4,350 mg/kg (IUCLID (2000))に基づくと、区分5または区分外と考えられるが、確定値が得られていないので、分類できないとした。	分類できない	-	-	-	ウサギを用いた経皮投与試験のLD50 > 4,350 mg/kg (IUCLID (2000))に基づくと、区分5または区分外と考えられるが、確定値が得られていないので、分類できないとした。	2013.8修正
82	アセトアルデヒド	75-07-0	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2	感嘆符	警告	重篤な眼への刺激	ウサギを用いた眼刺激性試験の結果、「強度の刺激性」がみられ、非可逆的な影響と報告されていない (ACGIH (7th, 2001)) ため、区分2とした。	区分2	感嘆符	警告	強い眼刺激	ウサギを用いた眼刺激性試験の結果、「強度の刺激性」がみられ、非可逆的な影響と報告されていない (ACGIH (7th, 2001)) ため、区分2とした。	2014.10修正
141	ジクロロメタン	75-09-2	水生環境有害性(急性)	区分2	-	-	水生生物に毒性	魚類(ファットヘッドミノ)の96時間LC50=5.2mg/L (EHC164, 1996)から、区分2とした。	区分3	-	-	水生生物に有害	甲殻類(オオミジンコ)の48時間LC50=27 mg/L (CaPSAR, 1993)から、区分3とした。	2013.8修正
141	ジクロロメタン	75-09-2	水生環境有害性(長期間)	区分2	環境	-	長期的影響により水生生物に毒性	急性毒性が区分2、生物蓄積性が低いものの (BCF=40(既存化学物質安全性点検データ))、急速分解性がない(BODIによる分解度:13%(既存化学物質安全性点検データ))ことから、区分2とした。	区分外	-	-	-	揮発性が高く速やかに大気中に揮散し、かつ生物蓄積性が低い(BCF=40(既存化学物質安全性点検データ))ことから、区分外とした。	2013.9修正
164	トリニトロトルエン	118-96-7	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A	感嘆符	警告	重篤な眼への刺激	CERIハザードデータ集(2001)のヒトで眼に対し刺激性を有するとの記述から、区分2Aとした。	区分2A	感嘆符	警告	強い眼刺激	CERIハザードデータ集(2001)のヒトで眼に対し刺激性を有するとの記述から、区分2Aとした。	2014.10修正
324	N-エチルアニリン	103-69-5	金属腐食性物質	区分外	-	-	-	データがなく分類できない。国連危険物輸送動告がクラス・区分6.1(国連番号2272)。	分類できない	-	-	-	データがなく分類できない。国連危険物輸送動告がクラス・区分6.1(国連番号2272)。	2017.10修正
515	p-アミノフェノール	123-30-8	可燃性固体	区分外	-	-	-	HSDB(2006)では可燃性としているが、データがなく分類できない。国連危険物輸送動告がクラス・区分6.1(国連番号2512(o-, m-, p-))。	分類できない	-	-	-	HSDB(2006)では可燃性としているが、データがなく分類できない。国連危険物輸送動告がクラス・区分6.1(国連番号2512(o-, m-, p-))。	2014.10修正
651	イソペンチルアルコール【イソアミルアルコール】	123-51-3	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A	感嘆符	警告	重篤な眼への刺激	ウサギの眼に強い刺激を与えていること(ACGIH (2001))から、「区分2A」とした。	区分2A	感嘆符	警告	強い眼刺激	ウサギの眼に強い刺激を与えていること(ACGIH (2001))から、「区分2A」とした。	2014.10修正
749	シアナミド	420-04-2	皮膚感受性	(約10%液状品)区分1	-	-	-	皮膚感受性はモルモットの試験結果より13.34%液剤原液にたいして陽性と認められた(農業抄録(2002))ので区分1とした。	(約10%液状品)区分1	感嘆符	警告	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ	皮膚感受性はモルモットの試験結果より13.34%液剤原液にたいして陽性と認められた(農業抄録(2002))ので区分1とした。	2015.3修正
784	2,6-ジターシャリーブチル-4-クレゾール	128-37-0	発がん性	区分外	-	-	-	ACGIHの分類がA4、IARCがグループ3により区分外とした。	区分外	-	-	-	ACGIHの分類がA4、IARCがグループ3により区分外とした。	2014.10修正
794	ジベンゾイルペルオキシド	94-36-0	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A-2B	感嘆符	警告	重篤な眼への刺激	ウサギにばく露後、24.48.72時間後に刺激性が認められる(SIDS.(2002))が、試験または試験方法によって刺激性の程度に差がある。よって区分2A-2Bとした。	区分2A-2B	感嘆符	警告	強い眼刺激	ウサギにばく露後、24.48.72時間後に刺激性が認められる(SIDS.(2002))が、試験または試験方法によって刺激性の程度に差がある。よって区分2A-2Bとした。	2014.10修正
894	パラジメチルアミノソベンゼン	60-11-7	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A-2B	感嘆符	警告	重篤な眼への刺激	ICSC(E) (2005)の眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。	区分2A-2B	感嘆符	警告	強い眼刺激	ICSC(E) (2005)の眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。	2014.10修正
1109	亜塩素酸ナトリウム	7758-19-2	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A-2B	感嘆符	警告	重篤な眼への刺激	ヒトへの影響におけるICSC(J)(2000)、HSFS(2000)、HSDB(2002)の記述(刺激性あり)およびIUCLID(2000)のウサギのデータ2つ(刺激性あり)から刺激性が明らかである。IUCLIDのデータに細区分の指標となる記載がないため、区分2A-2Bとした。 【表示】細区分を行う必要がある場合は、安全性の観点から、2Aとした方が望ましい。	区分2A-2B	感嘆符	警告	強い眼刺激	ヒトへの影響におけるICSC(J)(2000)、HSFS(2000)、HSDB(2002)の記述(刺激性あり)およびIUCLID(2000)のウサギのデータ2つ(刺激性あり)から刺激性が明らかである。IUCLIDのデータに細区分の指標となる記載がないため、区分2A-2Bとした。 【表示】細区分を行う必要がある場合は、安全性の観点から、2Aとした方が望ましい。	2014.10修正
1386	りん化石灰	1305-99-3	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A-2B	感嘆符	警告	重篤な眼への刺激	ICSC(J) (2002)の眼を刺激するとの記述から、眼刺激性があると判断し、区分2A-2Bとした。細区分はできなかった。	区分2A-2B	感嘆符	警告	強い眼刺激	ICSC(J) (2002)の眼を刺激するとの記述から、眼刺激性があると判断し、区分2A-2Bとした。細区分はできなかった。	2014.10修正
1387	マグネシウム粉	7439-95-4	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A-2B	感嘆符	警告	重篤な眼への刺激	HSDB (Access on Jun 2005)、HSFS(1999)およびSITTI(4th, 2002)の眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。回復性についてのデータはないため細区分はしなかった。	区分2A-2B	感嘆符	警告	強い眼刺激	HSDB (Access on Jun 2005)、HSFS(1999)およびSITTI(4th, 2002)の眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。回復性についてのデータはないため細区分はしなかった。	2014.10修正
1389	亜ニチオン酸ナトリウム(別名ハイドロサルファイト)	7775-14-6	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A-2B	感嘆符	警告	重篤な眼への刺激	IUCLID(2000)のウサギを用いた試験で刺激性が認められたとの記述から、区分2A-2Bとした。回復性が不明であることから細区分はできない。	区分2A-2B	感嘆符	警告	強い眼刺激	IUCLID(2000)のウサギを用いた試験で刺激性が認められたとの記述から、区分2A-2Bとした。回復性が不明であることから細区分はできない。	2014.10修正

1391	過塩素酸カリウム	7778-74-7	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2A-2B	感嘆符	警告	重篤な眼への刺激		ICSC(J)(1999)、HSDB (2005)およびHSFS(2002)のヒトへの影響として眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。刺激の程度や回復性は不明であるので細区分はできなかった。	区分2A-2B	感嘆符	警告	強い眼刺激		ICSC(J)(1999)、HSDB (2005)およびHSFS(2002)のヒトへの影響として眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。刺激の程度や回復性は不明であるので細区分はできなかった。	2014.10修正
1392	過塩素酸ナトリウム	7601-89-0	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2A-2B	感嘆符	警告	重篤な眼への刺激		ICSC(J)(1999)およびHSFS(2002)の眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。刺激の程度や回復性は不明のため細区分はできなかった。	区分2A-2B	感嘆符	警告	強い眼刺激		ICSC(J)(1999)およびHSFS(2002)の眼を刺激するとの記述から、区分2A-2Bとした。刺激の程度や回復性は不明のため細区分はできなかった。	2014.10修正
1393	過塩素酸アンモニウム	7790-98-9	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2A-2B	感嘆符	警告	重篤な眼への刺激		HSDB (2005)の粘膜を刺激するとの記述、およびHSFS(2002)の眼を刺激する可能性を示唆する記述から、区分2A-2Bとした。刺激の程度や回復性は不明であるので細区分はできなかった。	区分2A-2B	感嘆符	警告	強い眼刺激		HSDB (2005)の粘膜を刺激するとの記述、およびHSFS(2002)の眼を刺激する可能性を示唆する記述から、区分2A-2Bとした。刺激の程度や回復性は不明であるので細区分はできなかった。	2014.10修正